

平成18年度第2回中原区区民会議

日時 平成18年10月18日(水) 18:00

場所 中原区役所5階 502会議室

平成18年度第2回中原区区民会議会議録

- 1 開催日時 平成18年10月18日(水) 午後6時00分～午後8時14分
- 2 開催場所 中原区役所5階502会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 20名
生富公明 尾澤良二 小須田和昭 佐野愛子 鈴木眞智子 高島厚子 竹井齋
内藤幸彦 仁上喜久夫 芳賀誠 原良三 東田乗治 藤枝重之 松本玲子
水品美香 三竹和子 宮本良彦 モハammad・アンワル 横川郁子 吉房正三
 - (2) 参与 11名
市議会議員：市古映美 潮田智信 志村勝 立野千秋 長瀬政義 原修一
東正則 松原成文 吉岡俊祐
県議会議員：滝田孝徳 田島信二
 - (3) 報告者 1名
白井達夫(川崎市立中原小学校校長)
 - (4) 事務局
木場田区長 中橋副区長 阿部総務企画課長 関総務企画課主幹
その他関係部課長及び職員
- 4 会議公開
- 5 傍聴人 20名
- 6 報道 3社

午後 6 時00分 開 会

1 開会

司会 こんばんは。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。あと参与の方が1名、まだご到着していないですけれども、すぐ来ていただけたらと思いますので始めさせていただきます。

ただいまから平成18年度第2回中原区区民会議を開催いたします。

それでは開会に先立ちまして、中原区長の木場田よりごあいさつ申し上げます。

区長 皆様、こんばんは。本当にお忙しいところ、夜分ということでお集まりをいただきましてありがとうございます。第2回目の区民会議でございます。

第1回目は非常に盛りだくさんな内容のところ、皆様には本当に夜遅くまで会議に参加をいただきまして大変ありがとうございました。おかげさまでいろいろ注目されまして、第1回目を無事スタートすることができました。

第2回目は3つの議題がございます。1点目は、具体的なテーマに基づいてのご検討ということで、先日、運営部会を開きまして、どういうことをご検討いただくかということで決まりましたテーマが、「地域の安全・安心をどう守るか」ということで、特に子どもたちの安全をどういうふうに守っていくかということでご討議いただくことになりました。子どもたちの安全がこれほど連日ニュースになっておりまして、痛ましい事件が毎日のようにマスコミでも報告をされております。もちろんいじめの問題もありますが、登下校、あるいはそれ以外のときに子どもたちが犠牲になるという事件も起きておりますので、そういう子どもたちを地域の中でどういうふうに守っていくかが今日のメインのテーマでございます。

よくこういう事件が起きると、学校の校長先生がマスコミの対応をしている姿が報道されるわけでございます。もちろん学校の中とか、あるいは登下校の際に事件が起きたということであれば、それは基本的には校長先生が対応されるということは必要なのかなと思っておりますが、中には全く登下校とは関係のないところで事件が起きたというときも校長先生が対応されている姿を見受けるわけでございますが、私は個人的にはちょっと不思議な気持ちで見ている部分もありまして、あの中野島の事件のときも着任早々の校長先生がマスコミの対応をされておりました。

学校でできることと地域社会でやらなければならないこと、それは両方あると思います。登下校を中心に子どもたちの安全を守るんだということで、そのみが強調されますと、後で校長先生からのお話もあると思いますが、子どもを監視するということに力が注がれて、子どもたちが萎縮をしてしまう。本来は地域社会の中で遊び育たなければいけない子どもたちが萎縮をしてしまうという懸念もあるのではないかと思います。今日は地域社会の中で子どもたちが安全・安心に暮らせる社会をどうしたらつくっていただけるのかと

というのが議論のテーマになるのではないかと考えております。

そういうことで、きょうは中原小学校の白井校長先生においでいただいて、そういったお話も伺えると思いますので、ぜひご議論をいただきたいと思います。

あとは前回の区民会議で出ました、今後2年間、おおよそ地域社会の中にどういうテーマ、課題があるのかということについて議論をしたいというお話でございました。前回の運営部会で議論していただきましたので、そのご報告と、それから来年度の協働推進事業の内容についても、これはまた別途、協働推進事業検討部会を開催してご議論をいただきました。その内容についても協働推進事業検討部会の報告がございます。

以上の3点をご議論いただきますが、夜間のお忙しい時間帯でございますので、効率的な運営をぜひお願いをしたいと思います。

では、本日はよろしくお願いをいたします。

司会 それでは、あらかじめ確認させていただきませんが、今回の会議は会議公開条例に基づきまして公開となっております、傍聴の方等もお見えになっております。

次に、会議に入ります前に資料の確認をさせていただきたいと思います。事務局、お願いします。

事務局 それでは、お手元に資料が配られていると思いますけれども、確認をさせていただきます。

まず次第がございます。

次に、別添1ということで座席表が入っております。

次に、委員及び参与の名簿ということで別添2でございます。

次に資料でございます。まず資料1ということで、「地域の安全・安心をどのように守るか」ということで、後ほどパワーポイントがございますが、その同じものの資料でございます。

資料2ということで、川崎市立中原小学校の学校便り「つながり」というものが入っております。

資料3ということで、小杉町2丁目町内会が行っております「地域の安全・安心を守る運動」ということで委員から提出がございましたものでございます。

次に資料4ということで、今後の検討対象となるテーマがございます。

資料5、中原区協働推進事業の流れという1枚物の資料がございます。

さらに資料6ということで、平成19年度「中原区協働推進事業」計画一覧表。

資料7、平成18年度「中原区協働推進事業」計画一覧表でございます。

もし不足しているものがあれば事務局の方に言っていただければと思います。以上でございます。

司会 それでは、ここから議事に入ってくださいとなりますが、議事の進行につきましては横川委員長にお願いすることとなりますので、ここで司会からバトンタッチしたい

と思います。よろしくお願いいたします。

2 会議録確認委員の選任

横川委員長 皆様、こんばんは。横川でございます。この前と同じようにご協力をお願いいたしまして、和やかなうちにこの会議が進んでいきますようご協力よろしくお願いいたします。

初めに、議事録確認委員の選任をしたいと思います。第1回目のときは委員の負担を平等にするために会議ごとの持ち回りでお願いすることにいたしました。恐縮でございますが、今回は私から指名させていただきます。

小須田委員と鈴木委員にお願いしたいと存じますが、皆様いかがでしょうか。よろしかったら拍手をお願いいたします。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり、拍手〕

横川委員長 それでは、お2人の方、よろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 「地域の安全・安心をどう守るか」 - 子どもの見守り活動を中心に -

横川委員長 それでは、次第に従って議事を進めさせていただきます。

一つ目の議題であります「地域の安全・安心をどう守るか」 - 子どもの見守り活動を中心に - を議題といたします。

初めに、今回のこの議題を取り上げることとした運営部会の協議経過について私から簡単にご報告いたします。

会議ではさまざまな意見がございましたが、地域社会の安全・安心をどのように守っていくかということは、今の日本社会全体の大きな課題となっています。その中でも特に子どもたちが犠牲になる痛ましい事件が頻発し、川崎市内で発生した事件はいまだに心を切なくするようなことでもございました。これも全国的なニュースにもなっております。

子どもの安全をどのように守るかということは、登下校などの安全をどう守るかということだけではなく、子どもたちが地域社会の中で安心して遊び、育つ環境をどのようにつくっていくかという問題でもあります。このような認識のもとで、学校と地域が連携して子どもたちの安全をどのように守っていくかを第2回区民会議のテーマとすることとしたということで、運営部会で意見がまとまりましたので、「地域の安全・安心をどう守るか」 - 子どもの見守り活動を中心に - とさせていただきます。

なお、詳細につきましては、事前に送付させていただきました資料のとおりでありますので、ここにご出席の委員の方は深く熟読しておいでになったと思いますので、ここでの報告は省略させていただきます。

早速討論してまいります。地域で行われておりますさまざまな活動を細部にわたり

デオにおさめていただいておりますので、ごらんになっていただきたいと存じます。それにつきまして後ほどご意見をちょうだいしたいと思います。

それでは、ビデオの方、よろしく願います。

〔ビデオ上映〕

横川委員長 大変子どもたちの伸び伸びとした表情をよくとらえた素晴らしいビデオだったと思います。

次に、中原小学校の白井校長先生にお見えいただいておりますので、ここで話をちょうだいしたいと思います。校長先生、どうぞよろしく願います。

白井校長 中原小学校の白井と申します。どうぞよろしく願います。

塀のない学校というのがあるのをご存じでしょうか。一時全国に幾つかつくられたんです。全く塀をつくらない。それは開かれた学校づくり、地域のどの人たちも入ってきて子どもたちと交流できるようにと。ところが、池田小の事件が起きて、文部科学省の方針としてはなるべく校門は施錠しておくようになるとなると、大変困った。杉並の第十小学校というところでは、地域の方が交代で玄関に詰めて安全を守っていらっしやると聞いております。

塀のない学校をつくったときに、私は割と共感をしたんですね。というのは、昔から塀が高いのは刑務所と学校だけだと悪口を言われておりました、つまり学校というのはなかなか外に開かない。今度の件でもそういうことを言われているわけですが、そういう意味では塀のない学校というのは理念としては非常によかったのですが、たった一人の宅間という人間のためにそれが逆に学校のネックになる。ですから、教育活動、それから安全を守るといふことの両立は大変難しい問題だと思っています。

そして、池田小の事件で、侵入者対策ということで学校としても施錠をするとか、防犯カメラをつけるとか、いろんな対策をとったわけですが、これが今度、事件が登下校に集中するようになると、今度は学校を守るだけではなくて、登下校もという話になりました。さらに、区長さんの話にもありましたように中野島の事件は今度は住宅でというふうになってきますと、正直、教育機関である学校が子どもたちの安全を守り切ることの難しさというのを本当に私は痛感しておりました。

悩んでいたときに、実はNHKの「ご近所の底力」という番組だったですかね、夜眠れなくて、多分再放送だと思うんですが、お正月の真夜中に見たんですね。もう2年ぐらい前ですかね。そのときにご近所の方が、不審者が出たので登下校路に立っていらっしやるという映像を見て、わあ、これはありがたいことだと私は思いました。それで、子どもたちの安全を守るお手伝いをしていただけないだろうかということで、ビデオにもありましたように、私は前任校は宮崎小学校という宮前区の学校の校長でしたけれども、地域の方をお願いして、安全パトロール隊というのを結成していただいたわけです。

私が基本的に考えているのは、私は教育者ですので、子どもを守ることと同時に、子ど

もを育てることの両立を目指したいということなんですね。お手元に「つながり」という学校便りの表面だけを印刷したものを資料として用意していただきました。そのうちの257号をごらんいただけますでしょうか。左側の下の方からちょっと読ませていただきます。

昨年12月21日の朝日新聞の夕刊に、名城大学教授の榎本博明さんが「人付き合い体験もっと」と題された一文を寄せておられました。一部を抜粋します。

「『知らない人には注意しなさい』と小さな子どもに警戒心を持たせる時、それが行き過ぎると、人とコミュニケーションをとれない人が出てくる。過度に他人を恐れるようになるからだ。心理学を学んでいる学生に論文のテーマを考えさせると、『対人不安』『心を開けない』といったテーマが多い。『分かってもらえないのではないか』とか『相手の反応が不安になる』とか、他人への不安を抱えている若者が増えている。一概には言えないが、子どもを標的にした犯罪を起こした人の多くは、人とのコミュニケーションができなかったり、社会の居場所がなかったりする。それがあの日キレて、日ごろの鬱憤が爆発して攻撃的になる。他人を信頼できる社会にする仕組みを考えなければ、人間関係が築けない人が再生産され、他人への警戒心が増幅する悪循環に陥る恐れがある」

ごく一部の犯罪者のために多くの子どもたちの成長を犠牲にしてはならないとは、私も常に思っておりましたので、この意見に共感を覚えました。

というふうに書きましたけれども、本当に極端な話、子どもを不審者から守るのに大人の手元に常に引き寄せておけば、つまり行き帰りは親が見守り、学校の中では一切外界と遮断をしてというふうにしておけば安全なのかもしれないけれども、その子どもを守ることが、実は子どもに人とかかわりを持つ、それから人を信じる、人を愛する、そういう心情を育て切れなくて、逆に犯罪者になるかどうかは別として、そういうふうな不適応の人間を再生産、しかも大量生産していくのではないか。その辺が私は非常に気になっていたわけですよ。それでこんなふうなことを書きました。

それからもう一つは、これは木場田区長さんがちょっとお話を聞かせてほしいということで区長室で一緒にお話をさせていただいて、区長さんが、子どもたちの笑顔が見られるまちにしたいんだとおっしゃってくれて、私もとても共感を覚えたんですけども、何か危ないよ、危ないよだと、子どもたちから笑顔を奪うのではないだろうか。では、子どもたちの笑顔というのはどういうときにあるだろうか。やっぱり私は休み時間とか放課後とか、そういうものもすごく大事だと思うんですね。例えば安全のために常に集団下校だというと、子どもたちは放課後を奪われてしまう。みんな一斉に帰らなければいけないから。そして、時には先生が残って勉強を教えたり、そういうこともできなくなるし、係活動で残ったりということもできなくなる。

実は、その「つながり」の258号をごらんください。これは川崎が出している「文詩集

かわさき」というものから見つけたものなのですが、「さようなら」という千代ヶ丘小の子ども詩です。

学校に来たとき

「おはよう。」

って入るけど

家に帰るとき

「さようなら」

ってすぐ帰るのやだなあ。

だって放課後って一番楽しいじゃん

もうちょっと相手してよ。先生

話したいこといくらでもあるんだから。

あんまり時間たっていないのに

帰りなさいって言わないで 分かった？

先生

本当にこの詩を読みながら、私たちも子ども時代にそういうふうにいるんな子と遊び、いろんな子と関わるのが自分をつくってきたと思うときに、余りにも管理をされている子どもたちがかわいそうだなと思ったんです。

実は中原小学校は職員と6年生との野球の試合とかというのを放課後にやったりするんです。この前やったときには職員側が負けましたけれども、6年生の女の子まで出てきて野球の試合をしたんです。私はそういう時間も大事にしていくことは必要なのではないかと思っていたんですね。

でも安全は守らなければいけないわけですから、では、どんなふうを守っていくかというと、一つは、子ども自身にみずからを守る力を育てるということがあろうかと思えます。ちょっとスクリーンをごらんください。これはくらし安全指導員という方が来てくださって安全指導をしてくださっているところです。お手元に学校案内があったら、裏側に日程があるんですけども、年間2回、4月と11月に防犯教室というのを行っています。昔でしたら避難訓練だけだったんですけども、今は年に2回防犯訓練を行って、子どもたちにみずからを守る力を一つは育てる。

それからもう一つは、学校の敷居を低くしていくということですね。いろんな方に学校に入ってきていただいて、見守っていただく。PTAも入ってくるときには巡回中というIDカードをつけることになっておりますし、この写真は実は夏休みのふれあいスクール。夏休みのふれあいスクールというのを10日以上やっていて、ここでは勉強を教えるのではなくて、すべて体験です。フロンターレや富士通のレッドウェーブにもお手伝いをいただいていますし、そのほかダンス、科学実験、造形、たくさんの講座で、中原は児童数が400ちょっとなんですけど、延べ800人が参加をする。夏休みの体験の一コマなのですが、こ

れはお手玉を地域の方が教えてくださっているところです。このほかに学校参観を多くしたり、あるいはまち探検をしたりして、学校の敷居を低くして、いろんな人が学校に入っただくように心がけているところです。

それから三つ目に、あいさつを盛んにすること。これは朝のあいさつ運動の様子です。校門に立っているのは教頭先生と子どもたちです。毎日校門には教頭先生と、それから裏門には教務主任の先生がずっと立ってくださって、この写真にはちょっと入っていないんですけども、先生方も交代で立っています。子どもたちが立つようになったのは、代表委員会が順番に立とうじゃないかと決議をして、そして立つようになって、ずっと続いています。

この学校案内の「創る」の下のところ「スローガン」と書いてあるんですけども、これも代表委員会で子どもたちがつくったものなんですね。「あいさつ元気に 笑顔明るく やさしさいっぱい 中原小」。ビデオの最後のところで、中原小のいいところという質問に「あいさつと元気」と言うところが出てきてよかったな、子どもたちはみずからのスローガンを実践してくれるのかなとちょっとうれしく思ったんですけども、このあいさつ運動をさらに学校だけではなくて地域に広げていくというのは、私はご近所づくりだと思っているんですね。

昔、私どもの子どものころには本当にご近所があって、私などはわんぱくな部分もあったので、よくご近所の人に平気で叱られたり、たまにはほめられたりというふうに、ご近所とのかかわりの中で育てていただいた部分がいっぱいあるんですけども、今なかなかご近所というものがなくなっている。私などは自分はマンションに住んでいるものですが、向かいの方とかはごあいさつをすることがあっても、同じマンションに住んでいる人でもごあいさつがなかなかできないような状況にあるので、もう一遍ご近所というものをつくっていききたい。そのためには子どもたちがあいさつする習慣をつけていかなければいけないと思って始めました。

具体的には、まず中原小学校という大変恵まれた環境を生かしていこうと考えました。この学校は、私が来る前には文部省の学校安全の指定を受けていたこともあって、かなり先進的な取り組みをしていました。PTAによる「パトロール中」というステッカー、今はどこでも見かけますけれども、多分先進校だったろうと思います。あるいは子ども110番もかなりの数、学区内にございます。そういう条件を持っている。

それからもう一つは、小学校と中学校との連携が非常に強いということなんですね。去年まで川崎市の小中連携の研究推進校を受けていました。ですから学校案内の中にも、中学校の先生による授業などという風景も写真に載っていると思いますけれども、そんなことも取り組んでいました。今ご報告している内容というのは、たまたま私は中原小学校でするので中原小学校の例ですけども、宮内小学校、宮内中学校の3校で協力して取り組んでいる例だというふうにご理解をいただきたいと思います。

ですからビデオの中でも申し上げましたように、普通は防犯会議をつくるとしても学校単位だったのですが、私は3校の中学校区でつくるように働きかけました。ここにそのメンバーが入っています。警察からもおいでいただいています。町内会の方、民生委員の方、主任児童委員の方、青少年補導員の方、そして教員とPTAで会議を開きました。松本さんにも会議の委員になっていただいています。

それから地域教育会議というのがございます。これは川崎は全中学校区に地域教育会議というのがあるのですが、ここの地域教育会議は大変活発でして、私も本当にびっくりしたくらい活発なので、これも安全に役に立っています。スクリーンの左側は子ども座談会と言いまして、宮内中学校の子が司会をして、宮内中学校、宮内小学校、中原小学校の子どもが地域の安全や暮らしよさをテーマに話し合っているところです。幾つかの分科会、テーブルに分かれて話し合っています。

それから、左側が子ども座談会で、その右側の地域懇談会というのは大人の話し合いの場なんですけど、今回はたまたま中原小が当番だったものですから、中原小の子ども6人が子ども座談会でどんなことを話し合ったかを報告しているところです。この報告をもとに、当日、大人の参加者が186名いましたかね、すごい人数が来ているんですけども、なかなか子どもたちも辛らつでして 辛らつというのは悪気があって辛らつではないんですけども、自分たちの反省もするんだけど、大人のたばこのポイ捨てが目に残るとか、中原街道や府中県道の信号を平気で守らない大人もいるとかという話もいっぱい出てきましたので、ちょっとどきとしながら大人である私たちは聞いて、その後、地域でも大人たちが話し合っている。これも非常に大事なことだろうと思います。

そしてもう一遍話を戻しますと、中学校区防犯会議において実は安全パトロール隊の提案をさせていただいたわけです。このマークは宮内中学校の先生がデザインされたんですけども、ちょっと遠くからは見えないと思いますが、握手が三つなんですね。地域と保護者と学校が手をつなぐということと、宮内中・小、中原小が手をつなぐというデザインなんですけれども、地域や保護者で昼間ご活躍いただける方にぜひお願いをしたいということから始めました。

ねらいは大きく三つあるか思います。一つは、もちろん見守りでございまして、危ないまねをしていたら子どもにも声をかけてくださいということもお願いをしました。

二つ目は、これが一番大きいかと思うんですが、抑止効果。こういう方たちが昼間でも巡回していらっしゃったりというまちは犯罪者が入りにくいまちになるのではないだろうか。ですから登下校に限らず、どんなときでも子どもたちはいつも暮らしているわけですから、登下校だけに外へ出るわけではないので、塾の行き帰りもありますし、遊んでいる子もいるので、いつでも気軽にジャンパーを着て出ていただきたいとお願いしたのは、この抑止効果ということですね。

そして3点目はあいさつ。なかなか知らない大人には子どもたちはあいさつができません

んけれども、こういうジャンパーを着ている人は君たちを守ってくれる人なのだから積極的にあいさつをなささいという指導は常にしております。本当に町会の方、それから老人会の方々にはお世話になりまして、この場をおかりしてもお礼を申し上げたいと思います。

それから新たな対策を工夫するということで、一つは、なかはら安全マップというのがその右側にあります。これは教職員がつくったものですね。くらし安全指導員のご指導をいただいて、学区を教職員が夏休みに回りまして、地図に書き表したものです。ただ、本当は教職員がつくるよりも子どもたちがつくることが大事なので、ぜひ子どもたちの取り組みにしようということを今話し合っているところです。指導員さんの指導のもとに地域を回ると、ああ、あんなところは気をつけなければいけないのかなとか、案外盲点になっているようなところが見えて、私たちも大変いい勉強になりました。

二つ目に重要だと思っているのは、保護者と安全パトロール隊との連携が大事かなと思っているんですね。大変うれしいことが一つありまして、2年生が校外学習をするときに保護者の方からパトロール隊の人に一緒に見守りをしてくれないかと働きかけたことがありました。そうしたらパトロール隊の方が大変喜んでくださって、ですから校外学習は保護者がいろんな地域に立ちますよね。そのときにパトロール隊の方も立っていただいて、一緒に見守ってくれました。そのときに2年生のお母さんから、前はベストじゃなくて全部ジャンパーだったんですが、「校長先生、パトロール隊の人は汗みどろだよ、何とかしてよ」と言われまして、慌ててベストをつくらせていただいた。そんなふうにPTAとの交流も少しずつ始まっているかなと思います。

3点目の市教育委員会によるメール配信サービスということは、間もなく12月か1月ころに始まると思いますけれども、川崎市教育委員会の方で希望する保護者の携帯メールに不審者情報を流すということを、これは教育委員会の取り組みとして始めるところです。

それから次に、子どもたち一人一人にどうしていくのか。まず防犯意識を育てて方法を身につけさせるということで、防犯教室をやったり防犯グッズを　これは防犯ブザーですね。ただ、地域教育会議のときに実は質問されたんですね。「校長先生、本当に危なくなったときにあんなものを子どもが引けるものかね」と。私は正直な話、それは極めて難しいと申し上げました。本当に小さい子が、大人の犯罪者が来たときに大声を出しなさいとかベルを引きなさいと言っても、幾ら訓練をしても、なかなかできないだろうと思います。できない子どもを責めるわけにいかないわけですね。大人から子どもが身を守りなさいというのは、大人と子どもの話なので、もともとが無理な話で、子どもを守るのは大人の仕事なので、一生懸命教えますけれども、それは難しいとは思っています。ただ、子どもの意識を高める上でも指導はしっかりしていきたいと思っています。

それから安全パトロール隊や子ども110番の周知ということで、右側で朝会で紹介していますけれども、これはここにいる区役所の相原さんのアイデアで、「先生、朝会でご紹

介するといいいんじゃないですか」というので、朝会で言ってもらって、改めてみんなであいさつするんだよという話をしたところです。

それからもう一つは、ご近所を大切にということを考えています。どうも今の流れだと、危ない人がいっぱいいるというふうになると、先ほどの話じゃないけれども、人間不信に陥ってしまうので、私は子どもたちに防犯教室のときも必ず言うんですけれども、「確かに残念ながら危ない人もいるんだよ、だから身を守らなければいけないんだけど、大半の大人たちは君たちを見守ってくれる。大半の大人たちは君たちのために何かをしようとしている。そのことを忘れないでほしい」ということを必ず言うんですけれども、そういう意味では見守ってくれる人とあいさつができるということは幸せかなと。

それから地域行事に積極的に参加をさせていく。これは本校のPTAがまとめたものです。本校はPTA活動が大変盛んでして、表彰等も受けているところですが、PTAの地区委員さんが地域行事に本当に積極的にかかわってくれているので、いろんな活動が行われています。

最後になりますけれども、一つエピソードを申し上げますと、PTAの運営委員会というのがあるんですけれども、そこでこんな話がありました。先ほど言った地域懇談会のときに子どもの代表が、安全パトロール隊は本当に安心だということを何度も何度も言ったんですね。その話を安全パトロール隊の人にうちのPTAの人が伝えたら、ああ、僕らも役立っているというのは本当にうれしいと言って涙を流されて、その話をしている運営委員さんも涙を流していて、そういうふうに少しでも広がるといいなと。ビデオの中でも私、申し上げましたけれども、生意気な言い方ですけども、子どもを中心に地域がもっともっと密なコミュニティになるといいなということを考えています。

そういう意味で、中原区がこの会議の中で子どもの安全を位置づけて、今日こういう場を与えていただいたことに感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。
(拍手)

横川委員長 白井校長先生、ありがとうございました。ただいまのビデオを見て、また校長先生の細やかなご説明や学校の活動状態をお聞きになりまして、皆様もそれぞれに心の中で考えられることがあると思います。ただいまの信頼の上に立った子どもを守る姿勢は大変素晴らしいことだと思います。

これからは委員の皆様からいろいろなご意見をちょうだいしたいと思います。どうぞ忌憚のないところをご発言をお願いいたします。今まで各学校でご協力された方たちもたくさんいらっしゃると思うんです。どうぞご意見をおっしゃっていただきたいと思います。
内藤委員 委員の内藤です。校長先生、ご苦労さまでございます。先頭に立つリーダーがそういう高い意識を持たれていると、後に続く先生方がいい緊張感を持たれて学校を運営されていかれると思うので、これは今、議長がおっしゃったと同じように敬服の意をまずあらわしたいと思います。

ただ、2点ほど質問があるんですが、宮崎小と中原小学校でいじめという問題を校長先生として認識したことがあるかどうかというのが1点と、私もちょっと子どもにかかわる仕事をしているのですが、時代が違ってくるのか、私のころのおやじ、母親というイメージと、今の若いお父さん、お母さんというイメージがかなり違ってきていると思います。今、先生のお話の中に「家族」という言葉が一言も出てこなかったのは、私としてはちょっと不満なところで、先生がお読みになったこの「つながり」の中のコミュニケーションがない社会とかいうのは、言ってみればコミュニケーションのない家族とか、子どもは地域、家庭、学校の中の家庭の家族がまず一つの基本となるので、最近のお父さん、お母さんの様子がどうであるのかというのをちょっとお聞きしたいなと。2点ほど、よろしかったら、いじめのこととお父さん、お母さんというのは昔の私たちのイメージから変わってきているのか、きていないのか、先生の感想をお聞きしたいなと思います。よろしく願いします。

横川委員長 白井校長先生、よろしく願いいたします。

白井校長 いじめが全くない学校というのではないだろうとっております。ちょっと誤解を生むかもしれないのですが、ある学者さんが書いていたのですが、離れザルというのがいますよね。あれは群れに戻ってくるとだめなんだそうですね。ぶつかったときに、相手が死ぬまでやってしまう。群れの中でトラブルやなにかを経験しながら解決をしていくと、そういう力もある。ところが、ひとりで群れから離れて戻ってくると、本当に死ぬまでやってしまうから、自分が殺されるか相手を殺すかというふうになってしまう。ですから、いじめというのは本当に定義が広くて、多少のそういうふうなことは大人の社会にもあるでしょうし、大人の社会にあるものは子どもの社会にもあるというふうに認識はしています。

ただ、それをいいと言っているわけではなくて、学校案内にも一番最初に子どもたちにスローガンをつくらせましたよね。「あいさつ元気に 笑顔明るく やさしさいっぱい 中原小」、この下に書いてあるように、楽しい学校、いじめのない学校にしようと呼びかけてつくったものですから、いじめのないように努力はしていますが、多少はあるだろうとは認識はしています。

今のご質問は滝川市と福岡市の関連で出たんだと思うので、話がずれますけれども、少しお話をさせていただくと、まず教員の福岡市の方は、事実だとしたら本当に恥ずかしいことで情けないことで問答無用、何の弁解もいたしませんし、悲しいことだと思います。ただあそこで、これはインターネットで見たのですが、校長先生が あれは校長の責任もありますよ。あれは校長が一番責任をとらなければいけません。なぜ見逃したのかということはありません。ただ、校長が全校の子どもに話したときに、後で問題になった箇所が2カ所あるんですね。1カ所は「君たちがプレッシャーを与えた」という言い方をしたんです。子どもに対して「いじめ」という表現を避けたんですね。それからもう一つは、

「マスコミやインターネットで言っているほどひどい学校ではない」ということは君たち自身が知っている。これがまた問題になったんですね。

確かに不穏当な発言だろうとは思いますが、校長としてわからないでもないんです。つまり、君たちのいじめが原因で死んだんだよというのは、子どもを目の前にして校長は言えないんですね。ですから「プレッシャー」という言葉が出たと思います。滝川の事件のときに滝川の対応は悪いです。それを弁解しようなんて何も思っていないのですが、いじめを認めないと言ってすごくマスコミが批判したんだけど、テリー伊藤さんだけが言ってくれたのは、私はあれで彼を初めて見直したんですが、あそこは学年が十何人なんですか。その子たちが中学生になっている。その子たちのことを考えて、いじめとなかなか認められなかったのだからと言って、実際、いじめによって死んだんだということになると、残りの十何人の君たちが殺したんだということになってしまうんですね。いじめというのは、本当に子どもはその子が悪いからいじめるわけじゃない場合もいっぱいあるんです。みんなが無視している仲間に入らないと、自分がいじめられちゃうから同調しちゃうとか、やってはいけないとわかっていながら、つい違う行動がとれない、正義な行動がとれないという子どもがいっぱいいて、そういう子がいっぱい傷ついていく。そういう子に、いじめによって死んだんだと言うと、そういう子こそ傷ついてしまうわけですよ。

教育の場というのは、すごくそういうことがいっぱいあるので、ちょっと話がずれているのを承知で申し上げているのですが、マスコミの論理もわかるんだけど、どうぞ教育の側の論理も少し　これは弁護しているではありませんので。教育の側の論理も理解していただきたい。君たちのせいで死んでしまったなどということは、校長は死んでも言うてはいけないことで、私のせいだとか教員のせいだと言うべきであって、その辺を。でも、いじめというのはどうしてもあるだろうと思います。

それから保護者の問題、家庭の問題ですけれども、これもまた誤解を招きそうな発言をしそうなのですが、動物学者に日高敏隆さんという方がいらっしゃって、大変有名な動物学者なのですが、ちょうど校長会の全国大会でシンポジウムをやっていたのですが、山折さんという宗教学者が家庭教育がすごく大事だと言ったときに、日高さんが何と言ったかという、私はそう思わないと言ったんですね。どうしてそういうことを言うのかなと思ったら、日高さんがおっしゃるには、五、六百万年前に人類がアフリカという苛酷な土地で生まれた。その人類が角も牙もなく、速い足もなく、何で生き残れたかという、群れをつくることのできたからだ。大きな群れをつくれるのは人間だけなんだそうです。群れをつくることで、ああしては危ないとか、ああするとうまくいくとかということを知り続けたのが、人類が六百万年前から生き続けられた唯一の力だろう。だから、日高さんが言うには、家庭、家庭と言って、ずれた父親とずれた母親の間で育たらずれた子ができる、それよりはたかさんの人間の中で生きた方がいいと彼はおっしゃったんです。

私は、余り家庭教育、家庭教育と言うと、非常に教育が狭くなる可能性があるのですが、もちろん家庭は大事なんですけども、あまり家庭教育、家庭教育と言って では、どうやってやったらいいのか。手元にデータがあるんですけども、9割ぐらいのお母さん方は子育てが嫌になったことがあると答えているんですね。そういうプレッシャーの中で、家庭がどうあれと言ってもしようがないので、私の考えでは、人間のよさである大きな群れの中で、教室の中で、地域の中でみんなで育ててやることを優先した方がいいのかなとは思っています。ちょっと答えになったかどうか、失礼いたします。

吉房委員 校長先生にお伺いしたいんです。先ほどビデオのお話の中で、抑止の効果ということをおっしゃったんですが、今やっていることはすべて抑止なんですけど、そのうちの一環としまして、これから小杉町2丁目町内会の子どもの見守りについて、皆さんに対して私の方から発表するわけですが、今校長先生の言われました抑止効果につきまして一言私の方で校長先生にお伺いしたいことがあります。実は私も毎週木曜日、登校時にパトロールをやっている。ずっとやっているのですが、そのときに先生方が地域の方にまで出てきて子どもを迎える、そういうことが一つの大きな抑止の中に入ります。その点について先生、いかがでしょうか。

白井校長 教員の活動が不十分ということでしょうか。

吉房委員 パトロールをしても、私たちは朝出ているのですが、私たちは学校の先生たちを見たことがないんです。門のところであいさつするだけでなく、地域へ出てきて生徒を迎えるのも抑止の一環だと思うんですが、その辺を聞きたかったんです。

白井校長 おっしゃるとおりかもしれません。何かあったときには腕章をしたりして地域巡回は各学校で取り組んでいるかと思えますけれども、勤務の途中で見ることはあっても、勤務時間をずっと そういうことを言うとしかれるかもしれませんけれども、勤務時間をずらしてやっていくということは、継続的にはちょっと難しいかなと思っています。

ただ、登校指導というのは、うちの学校で言えば、そんなに回数は多くないんですけども、8時から巡回するというのはやってはおります。ただ、毎日のようにはとてやっております。

吉房委員 7時半から8時までの間が学校の登校の時間なんです。その時間は勤務時間ではないと思うんです。でも、それを先生方が地域へ来て、子どもさんの顔を見るのも一つの そういうことを私は言っているんです。

白井校長 それはちょっと厳しゅうございまして。

横川委員長 校長先生のお立場としては言えないんでしょう。

吉房委員 わかりました。

白井校長 それぞれにご家庭があり、保育園に送ってきて、先生はそうやっていらっしゃるから、7時半から8時というのは、登校時間は8時からですので、その辺も含め

て、本当に虫のいい話だとはわかっているのですが、地域でぜひカバーをいただきたいと思っておるところです。申しわけございません。

横川委員長 ただいま校長先生は大変苦しいお答えをしていましたけれども、校長先生が勤務時間をきちっと守らないで7時半から出てこいなんて言ったら、とんでもない、校長先生は即、ぼいと首を飛ばされてしまいます。今はそういう状態でございます。

区長 委員長、すみません、ちょっとお願いがございます。きょう白井校長先生においでいただいておりますが、先生にはもう既に十分ご報告もいただきまして、その役割を果たしていただきましたので、これからはぜひ、そういうご報告を受けて、子どもたちの安全を地域で守るといふ活動を進めていくために、自分たちでこういうことが必要なのではないかと、そういうご議論をぜひしていただければと。すばらしい先生なので、ご質問したいというお気持ちは十分わかるのですが、この会議はみずからどうやるかという会議でございますので、ぜひそのところをよろしく願います。

横川委員長 ただいま区長様のご助言してくださりましたとおり、今の学校勤務は昔と大分違いますので、その辺を踏まえてお話ししていただきたいと思っております。立派なビデオと白井校長先生のお話を踏まえて、地域に帰ってどのようにしたらいいかということをご検討していただきたいなと思っております。

三竹委員 三竹です。私ども中原区には児童委員活動強化推進委員会というものがございます。それは全区にございますが、川崎市の中でも特に中原区は大変活発に推進されております。別に自分のことを言うわけではなく、皆様方、非常に張り切ってやっていただいております。その会の中から、中原区民生委員児童委員協議会といたしまして、何か一緒にできるものはないかなというところから、まずあいさつは生活の基本であるということ、それと学校との垣根をできるだけ低くしたいというような事柄から、こういったあいさつ運動はどうかというところで、地域性もありますので、できるところから始めたというのが最初でございます。私どもの前に丸子民協さんが半年ほど先輩でございまして、見学させていただいたり、ご指導いただきました。

それでこういったあいさつ運動というのは一つの導入手段であって、この裏の効果というものが非常に大きいかなと思っております。例えば地域のボランティアさんをお願いするにしても、町会長さんのお宅を全部訪問いたしましてお話し申し上げ、協力をしていただいたとか、そういった他機関、他団体との連携がその陰にあったということが大変大きなことかなと。表にあらわれたあいさつ運動だけではないということを知っていただくと、なおいいかなと思いました。

それからもう一つ、余談ですが、この間研修会でちょっとお伺いしたんですけれども、あるまちでお年寄りが下校時間になるといすを持ち出して、玄関先に腰かけて「おかえりなさい」と言うそうですね。そうしましたら、何日かそのお年寄りが玄関に姿がないということで、お子さんが気にして先生に話し、先生がその地域の民生委員にお話しして、体

調の崩れたお年寄りを救うことができた、そういうお話も伺いまして、一方的ではなく、皆さんで盛り上げていく、その一つの手段としてのあいさつ運動と受けとめられるといいかなと思っています。

そして、地域のこれだけ大勢の人の目が子どもに行っているということをPRすることも大切です、そんなふうになっているところです。

横川委員長 ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。はい、どうぞ。

吉房委員 時間が8時までの2時間、限られた時間なので、よければ小杉2丁目の取り組みについて私の方からも話したいのですが、よろしいでしょうか。

横川委員長 ほかにきょうの学校関係で。どうぞ。

竹井副委員長 私は青少年指導員もやっていて、毎年2回ぐらい青少年指導員とPTAで各中学校区に分かれて情報交換するんですけども、その中で青少年指導員とPTAだけではやり切れないところがあるから、今度はぜひ町会等々にも輪を広げてやろうという話もしているんです。ただ、時間といいますか、なかなかそういう集まりを持つということも、呼びかけはこれからしようという段階ではあるんですけども、その辺がハードルがあるなと感じております。ビデオ等々でも三つの小・中学校の取り組みがあって、うまくいっているケースとして紹介されていますけれども、先ほど三竹さんから、背景にはいろんな活動があったんだよということをおっしゃってくれたので、ぜひ苦労というか、ここまでなったのにはこういう苦労とかこういうハードルをみんなで越えたんだよとか、そういうことも言っていた方が、ほかの中学校区なり、各学区でこういうことをやろうとするときに非常に参考になるのではないかと思います。そういうことをきょうは関係なさっている方が何人かいらっしゃいますので、お願いしたいなと思います。

生富委員 委員の生富でございます。中原小で行われているようなことがもし実際に実行されれば、ほとんど犯罪は起きないだろうと思います。それで私が個人的に思いますのは、マンパワーとしては、これは宮内中学校地域防犯会議のところを見ながら話しているんですけども、町内会とか民生委員とかそういうところが必要だろうと思います。それからソフトの面で、いろいろ事件が起きたので、どういうケースでどういう状態で起きたということは警察が一番よく知っているはずなのですが、私がマスコミの範囲で知っているのは下校時のケースが非常に多かったように覚えております。その辺のことについて、当然、学校の先生方を含めて、皆さんでこの会議で検討されているとは思いますが、ぜひその辺の検証をしっかりと、どの辺にポイントを置いたらいいのかということをお願ひしたい。

それからもう一つは、マンパワーの件に関してでございますけれども、私は町内会には入っておりますけれども、実は川崎の人間ではございません。川崎は結構外から入ってきている人が多いんですね。町内会にできるだけ取り込んで行事に参加してもらえような

雰囲気づくりをぜひお願いしたいと思います。

ちょっとずれていますが、以上でございます。

鈴木委員 鈴木です。今、白井校長先生からお話を伺ったのですが、宮内中学校では、かなり前ですね、私の上の子が今もう大学生ですけれども、中学生のときからあいさつ運動というのをやっておりまして、朝のあいさつ運動なんですけれども、期間を決めて、ずっと続けていました。最初は子どもたちが、親が立つということで、わざと遠回りしたり避けたり、そういうことがすごく多かったんですけれども、だんだんそれが何年間も続くと、子どもたちも当たり前になってきて、気持ちよく子どもたちの方からあいさつできるようになってきたんですね。それで、子どもたちもとくに中学校も卒業してしまいましたが、いまだにどの子に会っても気持ちよくあいさつしてくれます。

それから、今日ちょっと中原小学校さんにほかの用事で行ったんですけれども、校庭にいっぱい、ちょっと大き目の男の子たちがいたんですが、その子たちがみんな「こんにちは」「こんにちは」とあいさつしてくれるので、おやっと思ったら、実は宮内中学校の子どもたちだったんですね。それは宮内中学校の中でも総合学習だとかいろんなことで、いろんな人を取り込んで、地域の人にどんどん学校に来てくれと。中原小学校もそうなんですけれども、そういう雰囲気がすごくありまして、そういう中で接した子どもたちが、こうやってまちの中で声をかけてくれる。普通だったら中学生ぐらいの子というのは声をかけてくれないかなと思うんですけれども、そうやって手を振ってくれたりして、私は本当に今日中原小学校とか宮内中学校の校区っていいなというふうに思って、ますます学校に入りびたりたいなと思って来たんです。

ただ、思ったのは、どちらの学校も入るところにがちりかぎがありまして、もちろん押せば入れるんですけれども、やっぱり一歩引いてしまう。学校というのは、門が高い。それで災害避難場所になっているというのは何とも言えない気持ちですよね。何かあったときに塀の高いところに逃げ込もうと、みんな思うかなと。もちろん多摩川もそうなんですけれども、ふだん行きにくいところというのは、なかなかそういうときに一気に行けないのではないかなと。こういうことがいろんな意味で学校と地域との弊害になっているかなと、私自身は何とも言えない矛盾を感じながら来たので、校長先生のお話も伺って、これからの問題は、本当に安全とそういうコミュニケーションをどういうふうにしていくかなと、つくづく思いました。以上です。

東田委員 青少年指導員をしている東田と申します。ただいまビデオを見せていただきまして、防犯指導員やPTA、またそれに関係する団体のお互いの信頼関係の上に立ったあいさつ運動というようなことで、皆さん非常に和やかに過ごされている様子が見えかわれました。ただ、一番問題になるのは、このような状況に地域の人たちを巻き込むことが非常に大切ではないかと思っております。それについて、学校側にお願いということになるかと思いますが、体罰に対して学校も敏感になっていますし、また親の方も文句を言っ

て教育委員会を動かしてというような、そういうような姿勢でもって、本来、子どもたちをいい方向に育てたいとか、また地域とのかかわりということではかるんでしょうけれども、それについて親の姿勢が問われているのではないかと思います。私どもも地域で活動している関係上、本来ならば先生にも増して地域のおじさん、おばさんということで、子どもたちを叱り育てるというようなことをやっていかなければいけないのかなと感じております。そんな関係で、先ほども先生の方からお話がありましたけれども、地域力を我々が図っていくことがとても大事ではないかということなので、地域で叱り育てる人たちも断固とした姿勢でもって地域で活動していく、そんなようなことを心がけていきたいと思っております。

また、6月30日から現在までの状況なんですけれども、不審者情報がたまたま私どもの方に入りまして、それが23件ばかり私のところに届いています。学校の登下校、それからまた公園で遊んだりするような状況の中で起こっているということから、学校だけでなく、地域で見守りを進めていかなければいけないということで、私どものせっきく区民会議というこういう機関がありますので、学校の方にもお願いする、また地域の方にもお願いするというので、率先して地域の人たちに広めていく必要があるかと思っておりますので、その点をご協力をお願いしたいと思っております。以上です。

横川委員長 大変ありがたいご意見、皆様も同じような気持ちで、地域へ帰ってから、今日見ましたこれを踏まえて、自分たちはどのように自分の地域を守っていくかということに努めていただきたいと思います。

モハammad委員 モハammadです。今日は子どもたちの安全を守るというテーマでまず教育の関係者、先生、あるいは親たち保護者、あるいはボランティア活動をされている、いわゆる子どもたちとかかわっている当事者たちの話だったんですが、ひとり暮らしの私は当事者とか経験者ではなくて、第三者として客観的に見させていただいて、少し違う点からコメントをさせていただきたいと思います。

子どもたちの問題は、先生の話にもあったんですが、犯罪が増えているとか何とかの解決は学校に求められてもなかなか無理であるという先生の話もあったし、学校の内部だけではなくて、塀を高くすると登下校に犯罪が起きる。そこをいろいろ監視したりすると、社会の中。つまり、学校とか子どもたちの問題だけではなくて、これは今、本当に日本社会全体の問題であるということですね。

先生のお話に、「つながり」という学校便りに朝日新聞から抜粋の話で、「知らない人には注意なさい」という言葉で対人不安になるのではないかという話があったんですが、実際、私も長く日本社会を見ていると、これは子どもたちではなくて、大人もそうなっているんです。知らない人が道を聞くだけでも、いきなり話しかけると、それが変とか不思議とかではなくて、まず怖いと思われるということが非常に多い。テレビとかを見ていると、そういうことがあるんですが、この何十年間のコミュニケーションの問題の結果

だと思っんですね。ですから、これから学校だけではなくて、社会づくりでまさに先生がおっしゃったような近所づき合い、それしかその問題の解決はないのではないかと思います。あいさつ運動とか、パトロール隊とか、いろんな対策はとられているのですが、ジャンパーを着ている人、あるいは腕に何とか隊とかつけている人だけと子どもたちが会話とかあいさつをするのではなくて、社会のだれとでもあいさつするとか、そこのかかわりを持つとか、あるいは先生がご自分の子どものときのことをおっしゃったように、知らない人からしかられても普通という感じの、そういう社会づくりにならないと、子どもたちの問題の解決にならないのではないかと思いますから、そういうふうにコメントさせていただきます。

尾澤委員 尾澤と申します。よろしくどうぞ。

私ども商店街の者なんですけれども、ただいまビデオを拝見しました。それぞれのお立場で大変有益な活動をされていまして、その部分で私どもも商店街として商店街活動の中の一環として、商店街はとにかく販促とかいろいろやるんですけれども、社会的な活動というのでは皆様とちょっと違う部分があるように思っておりました。特に中原区は商店街の活動が非常に盛んでございまして、その面では非常に充実しているなと思っております。ただ、地域安全とか安心とかという観点になりますと、ただいまご紹介されたような皆様とはちょっと足りない部分もあるなということを経験してまいりました。そのことを考えますと、商店街ももう少し真剣にまちの安全、それから商店街のお買い物の中でも安全な商店街、住みやすい、お買い物しやすい商店街をつくっていくという一環としまして、こういう活動にももっと積極的に参画させていただくことが必要ではないかと考えております。

中原区の商店街というのは、現在、27団体の商店街がございまして、約1,500店舗のお店が営業しております。それに加えまして、未加盟の商店街もありますので、恐らく2,000店舗以上の商店が営業していると思っんですね、そういう商店街の商店を動員しまして何かできることがないかと、これから進化していくように活動を進めてまいりたいと思っしますので、どうかこのような機会に商店街がかかわることができる方策などのことについてお知恵を拝借したいと思っしております。

ただ、これは逆説的なんですけれども、いろいろ見守り隊とか子ども110番とか、そういうものが非常に盛んに行われていますけれども、誤解のないようお願いしたいのですが、こういう活動が意味がなくて何も必要がなくなるような社会というのが本来の安心・安全の社会ではないかと思っっているわけです。今の社会情勢ですとそういうことはどうしても必要で、きめ細かく活動を進めていかなければいけないというのが現行の状態でございますので、商店街も皆様と同じように、お客様を大切にするのももちろんですけれども、地域の宝である子どもたちを見守っていくという活動にぜひ参画をしていきたいと思っしております。いろいろお知恵を拝借しながら議論を進めていきたいと思っしております。

で、どうぞよろしくお願いいたします。

横川委員長 大変ありがたいご意見、子どもが喜んで買い物に行けるような、そんな商店街をつくってくださいませ。よろしくお願いいたします。

芳賀委員 委員の芳賀でございます。先ほど抑止力という話が出ていたんですが、これは非常に効果のあることだと思います。私は別なところで自転車と共生するまちづくり推進委員会というのをやっております、もう5年間、まち角に立ちまして、放置自転車をなくす活動をしているんですけども、私どもが立ち会いをしていますと、その日は放置自転車がすごく少なくなります。ということは、何もしなくても我々の姿を見ると、皆さんの方が自覚していただいて、ちゃんと駐輪していただけるというところがありますので、この子どもの見守りについても、ぜひ抑止力というところを踏まえて、皆さん根気よく続けていただければいいなと思いますし、我々もそれについてご協力していかなければいけないなと思っています。

それからもう一つなんですけれども、環境をつくるというのも一つの大切な行動かなと思うんですね。この環境で私が言いたいのは、見守りというソフト的なものではなくて、ハードの環境なんです。まちのつくり方。そういうところで死角をつくらないようなまちをつくる。中原区は道が真っすぐなので、ほとんど見通しがきくんですけども、横道というのは必ずありますので、そういうところが死角になってしまうということになるかなと思うんですね。ですから、これは個人的なことをお願いできればいいんですけども、例えば高い塀をつくらない。1メートルぐらいの塀にさせていただいて、1メートルでもちゃんと塀の役割を果たすんですね。境という形でいきますと十分できますので。そうすると、大人が隠れるというような角がなくなるような気がするんです。ですから、そういううちのつくり方をさせていただいて、見通しのいいまちにすると、犯罪の芽が摘めるのではないかな。

ということで、私のうちの前がくの字に曲がった道になっていまして、以前に小学生がちょっとよからぬ大人に声をかけられたということがありました。私のところにもブロック塀があったんですけども、私は改築を機会にブロック塀を取ってしまったんです。それで50センチぐらいの生け垣にしたんです。斜めに見通しがきくようにしました。その後はそういう話を聞かないので、その効果が出たのかなと今思っています、ただいまうちをいじっているんですけども、それもオープンにして、そういう見通しのいいうちをつくらうかなと思っていますので、ぜひ皆さんも、財産を守るために立派な高いブロックをつくられている方が多いんですけども、ひとつ低い塀にさせていただいて、緑を植えていただければ緑化にもなりますし、そういう形での子どもたちを守るという行動もあろうかなと思いますので、そういうこともひとつご検討していただければと思います。

横川委員長 大変ありがとうございました。いやしのまちづくり、どうぞそちらからご協力をお願いいたします。

内藤委員 先ほど発言しました内藤ですけれども、先ほどの話を否定するつもりは全然ないのですが、ちょっと極端なお話をさせていただきたいと思うんです。私は若いころ2年間、アフリカにおりまして、それも一番貧しい国のエチオピアという国で2年間ボランティア生活をしていました。その子どもたちは労働力として親に使われていますので、学校にもめったに行けません。着ているものは本当に1枚きりですから、皆さんのうちにある雑巾をさらに5年ぐらい水につけっ放しにして、乾かしてどろどろになるぐらいな服でも着ています。食事でもエチオピアですから、皆さんご存じのとおり、毎食おいしいものがあるというわけではなく、おいしいものどころか、冷蔵庫も水道もありませんから、あるだけのものを食べます。

それで私がそこでボランティア活動をして、そういう農家を訪れると、まずお父さんと私が最初に食事をします。そのときあるジャガイモとかなんとかをお母さんが蒸かしてくれたのを食べます。子どもとお母さんは食べませんで、ずっと待っています。それから夜私が寝るときになると、朝、女性が30分、1時間、はだしの足でくみに行った水を温めてくれて、もちろんガスもありませんから薪を燃やします。その薪も子どもが拾ってきます。私のところに来て足を洗ってくれます。すごくあいさつもよくしてくれます。

つまり、さっきちょっと校長先生に聞いたんですが、あいさつ運動というのをしなければ子どもがあいさつをしないというのは、正直、私から言うと寂しいことだと思っています。さっきの運動が悪いとは全然思わない。すごくいいことですから、どこの町会でも、地域力とかいうお話があった方と全く同じで、今の日本の社会は問題があるからこういう会議を開いているわけですが、貧しい学校に行けない子どもでも親にあいさつをすることをしっかり言われれば、あいさつができるというのがまず言いたいんです。ですから、今こんなにすてきな国である日本が地域の皆さんを集めてあいさつ運動をしなければいけない、それぐらいひどい国になっているという気持ちを私はまず思っています。残念なことだと思います。

それで、先ほどの校長先生のプレゼンテーションはとてもすばらしい。今の子どもを見守る運動とすれば、確かに、きょう私はもうちょっと違う子どもの話ができるかなと思ったんですが、見守り活動についてということで、これは子どもを取り巻く光の部分だと思うんです。ところが、私たちが今本当に親として、大人として考えなくてはいけないのは、きょう一言も出てこないような影の部分だと思うんです。例えば児童虐待とか不登校児だとか親の養育放棄ですとか、それから子どもが被害者になる場合もあるんですけれども、加害者になる場合もあるじゃないですか。私は先ほど、親が変わっていませんかとちょっと言ったのは、それについてのことと、それからどちらかの方が親の姿勢が大事だとおっしゃってくださったので、私はそれと全く同じなんですけれども、そういったことで今後、この話がそういう面で発展していくのか。光の部分だけこうやって映して、皆さん、関係者が光の部分だけうちに持ち帰って、光の部分だけやりましょうでこの会議が終

わるのか。もっと、これは専門のことになってしまうのかもしれない、私たちが区民会議で話すことじゃないのかもしれないけれども、私は大人でおやじだとしたときに、本気になって子どもの安全をみんなと話したいと思うわけです。

そうしたときに、これは区長さんに聞きたいのですが、今後、児童虐待のこととか養育を放棄するような親のこととか、この川崎がどういう状態になっているかみたいな話があるのかどうか。私は本来ならそういう話をして、今の話が当たり前とは言いませんけれども、今の話が当たり前になるような社会をつくるのが本筋じゃないかと思うんです。この会議の今後なんですけれども、区長さん、いかがでしょうか。

白井校長 先にちょっとよろしいですか。

横川委員長 はい、どうぞ。

白井校長 内藤委員、ありがとうございました。私は本当は全面的に同感でございます。今の親がどう変わったというのは立場上なかなか言いにくいというか、ただ、教育の最前線にいますから、児童相談所の連絡があるときもありますし、それから私は前任校の宮崎小学校というのは養護施設を学区内に抱えておりまして、親が養育放棄をした子どもたちが学校内に20人ぐらい通っております学校でしたから、ここの議論がそうあればいいんですけれども、私の立場上そういうことは余り言えない。

ただ、私は先ほどちょっとデータを出さなかったのですが、今、手元の手帳のデータで言うと、1999年の調査なんです、「あなたは子育てをつらく思うときがありますか」というのに、約9割の母親が「はい」と答えている。それからもっとびっくりするのは、「あなたは子どもがかわいく思えないときがありますか」というのに、約8割の親が「はい」と答えている。だから、それは単に家庭の問題じゃなくて、子育てに冷たい社会。社会もなかなか本当に厳しくて、ちょっと運動会の放送が大きいというと、「寝ているのだから静かにしてくれ」とか、すぐ学校に電話がかかってくるし、「うちのマンションには一人も小学生がいらないから集団登校の集合場所から外せ」とか、社会が冷たくなっている部分もあって、そういうのに親が苦しんでいるものもあるので、これは単に家庭がというふうには言えない。子どもがかわいく思えないお母さんに、かわいく思いなさいと言っても、何の解決もしないんです。思えないというのは感情の問題で、理屈の問題じゃないので。ですから、本当にどうしてそうになってしまうのか。それが行き着くところが虐待だと思っておりますけれども、そういうことを本当はもっと議論しなくてはいけないですよ。それは親がいけないとか、今の母親がということではなくて、何でこんな社会なんだということも議論したい。

私は内藤さんのおっしゃったことはすごくよくわかりますし、私もそう思っているわけですけれども、先ほどの私の答弁がずれていたら、それはお許しをいただきたいということでございます。失礼いたしました。

横川委員長 ありがとうございました。

それでは内藤さん、どうですか、区長さんのお話をお聞きになりたいのですか。
内藤委員 できれば。多分皆さんもそういう気持ちがあると思うんです。私がこの間、運営委員会で話したのは、武蔵小杉はこれから変わりますよね。大きなマンションがどんどんできています。あと10年たったときに、私なんかは渋谷、新宿はもう行きたくないですね。渋谷を見て、あそこでたむろしている、それはガングロだろうと何だろうと、ファッションの個性があるからいいと言え、それまでですけども、ただ、ああいうところで地べたにたむろして、何となくあれが青春時代かなというのは、やっぱり違うと思うんですね。彼女たち、彼らはあれが一番居心地がいいからで、簡単に言えば、家庭という本当は一番居心地のいい場所がないから、ああいう形をかわりにやっているわけですよ。彼女たちはそれに気づいているか気づいていないかわからないんですけどもね。

ですから、今の校長先生のお話も、さっきのモハammadさんが言ったんですけども社会 余り大きなことを言うと、今度は政治家の先生方をお願いするしかないんですけども、ただ私は大人として、おやじとして、武蔵小杉が今後、第二、第三の渋谷や新宿みたいな、行くところがなくなった若者がたむろして ところが、今、中学校でも体育祭が終わったりコーラスなどが終わると、打ち上げ式に子どもたちだけで行くんです。中学生が夜の何時までカラオケに行く。私の娘だったら必ず私が行きます。また家内に行かせます。どなたか親がついて行けば、特に文句は言うことはないんですけども、子どもだけでカラオケボックスだ、飲み会をやるかどうかわかりませんが、焼き肉屋へ行くとか、そういうがこの近辺で今現実にあるんです。そういったことを考えたときに、もうちょっと影の部分を私たちが今から、言ってみれば社会の問題ですから、基本的に言えばと大人のモラルの問題ですよ。それをもうちょっと話し込んでいかないと、武蔵小杉にばんばんでかいはできたときに、新しい人が入ってきて、もともとから住んでいる我々がそういうことで本当に一致団結して、新住民の方々の子どもたちを守るというような何か活動が、目に見えたものがなければ、第二の渋谷、新宿になっていいんですか。皆さんはなりたいと思っていますか。私は嫌だと思っている。だから、この会議で何とか言えればと。

藤枝副委員長 先日、新聞にも出ていたと思うんですけども、武蔵小杉周辺地区のエリアマネジメント、それが今、内藤さんのおっしゃった問題も含めて、こういう巨大ビル群というか、林立します。そうすると1万5,000人ぐらいふえますね。その人たちは通常で黙って見ていれば、自治会・管理組合をつくって、中原区とは何の関係もない存在になってしまうだろうと思うんです。それではいけないというので、いろいろ皆さんのお力を添えまして、まちづくり局が中心となりまして、そういうNPO法人を立ち上げたばかりです。今、内藤さんのおっしゃっていたようなことももちろん取り組みの一つに入っていますし、行く行くはその人たちに自主的に管理してもらおうのですが、それまで我々がお手伝いしながら、中原区になじむ新しい住民ですね。

それから、この間もちょっと言わせてもらったんですけども、結局、新しいビルができて、いい面ばかりではないと僕は言ったんです。逆の面もいっぱい出てきますよと。その辺をどうやって取り組んでいくかということのをこれから真剣に考えなければならないので、それにこれから取り組むところなんですけれども、商業者部会、若手部会といろいろございまして、これからそれがだんだん活躍していくことになると思いますので、それはこれから一生懸命やっていきたいと思います。

それから、きょうここへ来る前に、先生もご存じだと思うんですが、全国高校校長会の会長先生がきょう見えまして、先生がきょう見えるということを書いたら、先生にぜひリクエストしてほしいと言われてきたことは、学校では「おはよう」と「さようなら」を教えます。間の「こんにちは」が少ない。それをぜひ学校で今度教えていただければ、まちへ出て皆さんとあいさつがしやすいのではないかとことを校長先生に言ってほしいという伝言がございました。それだけです。

横川委員長 たくさんご意見が出ておりますけれども、時間が迫っておりますから、あとお1人ぐらい、どうぞ。

佐野委員 佐野と申します。地域の中でいろんな方たちが活動していらっしゃる、それは本当に大事なことだと思います。子どもというのは守られる存在だとは思いますが、自分も危機意識を持ってやっていくということも非常に大事なことだと思います。

あいさつ運動をやらせていただいて感じたことは、最初はあいさつの中で子どもたちは声が出なかったです。声が小さくて戸惑いを感じながら、丸子地区で今年の10月から始めていたんですけども、ちょうど1年になります。その中で子どもたちが元気に私たちに今、声をかけて「おはよう」と。それから、持ってきたんですけども、このピンクの腕章をしております。普段はうちでは腕章をしておりませんが、おうちの前を通ったときに「あっ、おばさん、こんにちは。あいさつのおばさんだね」と言ってくれたり、お母さんが知らなくて子どもがあいさつしてくれて、「あの人、だれ」なんて言われたこともありましたけれども、このあいさつ運動ですとか、私たちがやっている子育てサロンですとか、そういうものは本当にきっかけづくりだと思います。

これを始めるときに、学校の先生次第だ、校長先生次第だと委員長の先生がおっしゃったんですけども、上丸子、それから西丸子の校長先生が理解を示していただいて、即やっていたということに非常にありがたく、今日まで1年進んでこられた結果だと思っております。ですから、これがいつまで続くのかということなんですけれども、グループをつくってやらなければならないということではなくて、一人一人が、地域みんなが、さっき白井先生がおっしゃったように、ご近所同士、仲よく子どもたちを見守っていこうというのが根本だと思いますので、区がどうしろ、市がどうしろ、教育委員会がどうしろということではなくて、地域みんなが子どもたちを見守り、やがて子どもたちが10年、20年たって大きくなって地域の中に入って、自分たちも、ああ、おばさんたち、おじさんたち

ちに守られてきたんだなということを考えながら生きていってほしいなということが私の願いです。

それから虐待についても、私、主任児童委員をやっておりますので、全国レベルでパーセンテージは一緒でございます。毎日1件は虐待の事例があると聞いております。そういうご報告も聞いておりますし、それからもちろんあいさつも会話もない状況の中、それからさっき映像の中で一番感じたことは、塾へ行って遊ぶ時間がないんだよねと、とても胸が痛く思いました。年齢、月齢に合った遊びですとか友達との関係ですとか、そういう中で社会に出て身につけていくものがたくさんあると思います。そのほんの私たちのグループの中でのきっかけづくり。こういう会議の中でこういう会話がなくなるような地域に、小杉のまち、中原のまちをつくっていけたらいいなと思っておりますので、行政もお力になっていただければと思います。

学校の方でやりましょうというのだったら、私、幾らでも協力するんですけども、地域からこれをやりましょうと言っても、なかなか腰を上げないところがありますので、その辺のところは教育委員会の方も、川崎市全体、中原区全体の中でできるような形をぜひお願いしたいなと思っております。ここは行政にお願いするところではなくて、我々が発信していく場ですので、ぜひさように申し添えておきたいと思っております。一生やっていかないといけないのかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

横川委員長 ご丁寧なごあいさつ、ありがとうございました。

あとお1人。では、どうぞ。

原委員 皆さん大変真剣にご検討いただいて本当に助かるわけですが、社協の立場も、実は地域の皆さんでもって支えていかななくてはいけないということをつくづくわかっているのですが、公共施設、例えばいこいの家、これなどは老人だけでもって今まで使っていたのですが、これは子どもも使えるだろうと思うんです。だから運営委員会の運営委員の方々のご相談次第によっては、子どももお使いになれる、世代交流ができるだろうと思うんです。これはぜひ場所を 今、場所が必要なんです。公園ばかりじゃないんです。公園だと危ないと言って、親が出してくれないんです。ですから場所を、学校だとかこ文だとかいこいの家だとか、これらを活用していただいて、世代交流していただいて、そこで人権感覚を養い、年寄りから教わる。人権感覚を養うというのは、学校だけではないんです。実践でもって学びますから、こういうところで交流していけば、非常にいい。今の時代もそうじゃないかなと考えるわけですが、よろしくお取り上げのほどお願い申し上げます。

横川委員長 社協からもご協力のそういう力強いお言葉、大変ありがとうございます。

30分ぐらいで終わる予定のこのテーマが非常に熱心にご討議いただきましたが、大体出尽くしたということは申し上げられません。また、ご父兄とかそういう多面にわたって違

う分野で検討しなければならない非常に難しい問題も何点か出てまいりました。そのことにつきましては、また委員の方で打ち合わせをしながら選んでいきたいと思えます。

この程度としまして、本日の議論を参考にしまして、きょういらしていただきました委員の方たちは、子どもの安全を守るためには地域で何ができるのかということのを改めてテーマに考えていただきたいと思えます。また、地域に何を求められているのか、地域や団体にお戻りになって改めて考えていっていただければと存じます。

きょうは本当に公務ご多忙の中を白井校長先生においでいただきまして、細部にわたりご指導のいろいろなことをご披露、またお話ししていただきまして、ご出席いただきましたことはまことにありがとうございます。今後とも地域のためにお元気でご協力をお願いしたいと思えます。それにはご自分の健康も十分、深酒などをなさらずによろしく願ひいたします。

〔拍手〕

(2) 今後の検討テーマ

横川委員長 それでは改めて、今後の検討テーマにつきまして議題といたします。

お手元に配付いたしました資料4「今後の検討対象となるテーマ」は、今後の区民会議で検討する必要があると思われるテーマにつきまして、運営部会で協議検討した結果を取りまとめたものでございます。事前に資料をお配りしておきましたが、テーマに追加する課題など、新たなご提案がありましたら、資料にないものでも結構でございますので、皆様からご意見をいただきたいと存じます。簡単明瞭によろしく願ひいたします。

吉房委員 はい、わかりました。先ほどの内藤委員の言ったことは、私も全く同感でございます。これからもそういうテーマを取り上げてやっていけばいいのではないかと私も全く同感で、やっていきたいと心から思えます。

資料3のところを見ていただいて、小杉町2丁目町内会で取り上げているところ 私の言うことは単なる小杉2丁目だけではなく、中原区、また川崎市、日本全国の事柄なんです、ひとつ私の町内会でやっていることを皆さん方に発表しまして、いろいろご意見がありましたら、また私の方にいただきたいと考えております。実は地域の安全をどう守るか、またこれは繰り返しなんです、とりあえず私ども単会の運動をやっております。この資料3がありますので、これから要点だけを皆さん方に説明していきたい、このように考えております。皆様方に配付されました文書を要点に、説明させていただきます。これは小杉2丁目だけでなく、中原区全体に言えることだと思えます。

平成16年から町内の役員、また民生委員、老人クラブ、そういう人たちと一緒に見守り活動というのをやっております。その活動は、小杉2丁目は西丸子小学校へ通学していく子どもが一番多いので、小杉2丁目だけで西丸子小学校に通っている子が約130名いるんです。特に登校、下校時を重点にパトロールをしているのが、毎週木曜日、3人ぐらいで

やっているのですが、町内で役員さん、また民生委員さん、老人クラブは別としまして、犬を散歩させている人にも腕章を渡して、自由にパトロールしているということが実態でございます。今、一番子どもがねられるのは、スクールゾーン 小杉2丁目は3本の大きな道路がございます、真ん中が中央通りと言うのですが、これが西丸子小学校へ登校下校するスクールゾーンでございます。ですが、このスクールゾーンは、皆さんスクールゾーンに沿って、先ほど家の問題が出たのですが、家に沿って玄関があり、またベランダがあり、そういうところで子どもさんがいつも登校下校しているときは目がありますから、その辺は安全なんですね。ですが、下校時、スクールゾーンから家に帰るときが一番危険なところでございまして、その辺を重点的にこれから取り組んでいきたい、このように考えております。

スクールゾーンから外れて家路に帰る うちの町会では袋小路が4本あるんです。これが一番危ないところです。実はこのスクールゾーンから外れた袋小路のところに、これから私どもの運動はのぼり旗を1本ずつ立てまして、立てる箇所は「子ども110番」という学校から配付されているステッカーがあるのですが、これが全部で約172カ所あるんです。これは6町会でございますが、うちの町会で張ってありますステッカー「子ども110番」のおうちのところにそののぼり旗を立てかけて、子どもさんを見守るといような運動を展開していくということでございます。その目的は、子どもさんばかりではなく、すべての犯罪の抑止ということでこれから進めていきたい、そのように思っております。

またもう一つは、皆さんのところに、ちょっと半端なのですが、マップが置いてあります。このマップなのですが、実はこのマップは「小杉町二丁目防災マップ、小杉町二丁目防犯マップ、ひたたくり空巢危険区域」で、平成16年のときにつくったわけなんです、この当時はひたたくりがすごく多かったですね。今はひたたくりは余りないのですが、その当時つくったときのマップなんです。

一番最初は平成15年10月に防災のマップをつくりました。その防災のマップをつくった時点におきましていろいろ気がついた点がいっぱいありました。これは防災のマップだけじゃなく、防犯、また子どもさんたちを見守る、またいろいろな犯罪から守ろうじゃないかというところに気づいたわけで、2枚目をつくりまして、今現在、横が60センチ、縦80センチのものを小杉町二丁目町内会に張ってありまして、いつでも皆さんが見られるようにしてあります。また、これは110枚つくりまして小杉2丁目に回覧しまして、この箇所は危険、この箇所は暗い、この箇所は危ないというようなところが1区、2区、3区と分かれまして、これは番号が入っているのですが、これはカットしてありましてちょっと見にくいだらうと思うんですが、こういうマップをつくってやることに関して、防犯についての意識が、普通の目で見えたものより、写真で撮った箇所がずっと続いていくんですね。そういう点で結構効果がありまして、家庭に置いて、ここが悪い……。

東田委員 済みません、大変いいお話を伺っているのですが、時間等もありますので、大

変申しわけありません。

横川委員長 各町会の活動の発表ではございませんので、あとどのくらいのお時間……。

吉房委員 あと2分で終わります。

横川委員長 さようでございますか。では、もう少しお耳を傾けて。何とぞよろしく。

吉房委員 そういうことで、子どもの見守りについて、こういうマップをつくったことで非常に効果が出たということが結論でございます。これからもこういう運動をもっとこのマップを密度を濃くして、あるいはハザードマップなどもつくって町内の地域を守っていく、そういうことが目的でつくったわけでございます。かいつまんで要点だけ話したのですが、もっと話はあるのですが、時間が来ましたので終わりたいと思います。ありがとうございました。

横川委員長 まことに申しわけございません。また今度お時間のあるときに続きを楽しみにしております。それに、今の見守りにつながってこのようにしているという実践でございましたので、またそれをご参考に、皆様よろしく願いいたします。

意見が出尽くしたかどうか、もう十分だと疲れたような顔がだんだん見られてきましたので、本日はこの程度として、また改めてさえたところでやりたいと思います。何か意見がございます方は、事務局までご連絡いただければと思います。

それでは次回以降の検討テーマにつきましては、緊急性、重要性などを勘案いたしまして、運営部会で調整しながら決めていきたいと存じます。いかがなものでしょうか。よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(3) 中原区協働推進事業について - 第1回協働推進事業検討部会の報告 -

横川委員長 次に、中原区協働推進事業についてを議題といたします。

初めに、資料5をおあけくださいませ。「中原区協働推進事業の流れ」について事務局からご説明をお願いいたします。

事務局 それでは、資料5をごらんいただきたいと思います。簡単に中原区の協働推進事業の流れについてご説明させていただきます。

中原区の協働推進事業は、地域の特性を生かしたまちづくり、市民との協働のまちづくりを進めるための事業でございます。昨年までの中原区魅力ある区づくり推進事業から名称変更をしまして、予算も5,000万円から5,500万円になりました。市民活動に対するの支援ですとか区役所サービスの充実などの事業に充てております。

資料5には1年間の流れを簡単にお示ししてございます。まず年度の初めに前年度の事業の評価を行います。事業を所管しております課が、事業を市民活動団体などと調整を図りながら評価案を作成いたします。この案を協働推進事業検討部に諮りまして、委員の皆様のご意見を伺いまして、また区民会議にも諮って事業評価としております。

次に、この評価結果、また区役所に寄せられております区民からのご意見などを踏まえまして、7月ぐらいから来年度の事業計画案を作成いたします。計画案につきましては、検討部会、また区民会議に諮りまして、委員の皆様のご意見を伺った上で調整しまして作成しております。この後、財政とのヒアリングですとか議会の審議を経まして、翌年の3月に予算が確定いたします。

以上、簡単ではございますが、協働推進事業の1年間の流れにつきまして説明いたしました。よろしくお願いいたします。

横川委員長 どうもありがとうございました。

それでは次に、竹井協働推進事業検討部会部会長、部会からの報告事項などがございましたらお願いいたします。

竹井副委員長 それでは、第1回の協働推進事業検討部会の報告を簡単にさせていただきます。

検討部会では、平成19年度、来年度のこの計画について主に審議をいたしました。資料は、資料6、A3の4枚物の資料が19年度のものでございます。

来年度は全部で38事業ありまして、「 」のところが今年度の事業から分割した事業と、「 」がついていきますのが来年度から新しく始まる新規事業と、あと何もついていませんのは継続事業、そういうふうに見ていただければと思います。

1ページ目では、ポイントだけだと、2の明るく健康で文化の薫るまちづくりを目指してという中で、中原区音楽ライブというのが今年度8回目でございますけれども、年々参加の演奏する方もふえているということで継続の事業になっております。

次のページ、2ページ目ですが、一番上の方に中原街道歴史事業というもので、これも中原街道時代まつり等々の支援の中での一環の事業で新しく始まるものでございます。

あと下の方の3の(4)の市民活動支援サイト事業ということでは、いろいろ市民活動しているものの紹介、または交流等を目的に、最近インターネット等がよく使われておりますけれども、そういったところで情報を集めて、みんなで活用できるようにしようというもので、今年度は予備調査で、来年度からそういったものをつくっていく、そういうものでございます。

3ページ目では、中原区の子育て支援事業4の(1)等は継続でありますとか、その辺、子ども関係のものは継続が並んでおります。

あと新規のものでは、11番目、下の方ですけれども、乳幼児ふれあいスペース事業ということで、これは保健所に乳幼児健診にいらした保護者、お父さん、お母さんの方に、待ち時間とかそういったものを利用して、保健師、保育士がいろんなことを情報交換、相談に対応するとか、そういった事業で新しく行うものです。

以上、本当に簡単ではありますけれども、新しい事業、また継続の事業ということで審議をいたしました。

資料5のとおり基本的にこの検討部会では、今説明したような来年度の事業について審議をするのと、18年度が終わった段階で、18年度の事業がどうだったかという評価を年度初めに行うということになります。特に今年度、いろんな事業が資料7で示されておりますので、委員の方には関係する事業等々もあると思いますので、ぜひそれぞれの事業に対して何らかの形で注意していただいて、来年度初めの評価のときにまたいろいろご意見をいただければ非常にありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。横川委員長 ただいまの竹井副委員長からの報告、事務局からのご説明につきまして、質問などございますでしょうか。

生富委員 委員の生富ですけれども、今回のあれのときに通学路のことで同じものを見たのでちょっと質問したいのですが、青色回転灯自主防犯パトロール推進事業9万6,000円というのは、どういったものが主になる予定ですか。

事務局 事務局からお答えさせていただきます。

川崎市では平成18年10月1日に青色回転灯を活用しました自主防犯パトロールの推進という要領を整備いたしました。中原区といたしましては、平成19年度に市民活動団体さんにこのような青色回転灯をご活用いただいた自主防犯パトロールをぜひ推進していただきたいということで、今回予算立てをさせていただいております。以上でございます。

横川委員長 ご了解していただけましたでしょうか。

生富委員 はい。

横川委員長 ほかにございませんようですので、先へ進めさせていただきますけれども、よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

横川委員長 いろいろ曲がったり伸びたりしましたけれども、以上で本日予定しております議事はすべて終了いたしました。大変ありがたいことでございます。

4 閉会

横川委員長 ほかに委員の皆様、事務局からは何かございませんでしょうか。

モハammad委員 きょうの議事の(2)である今後の検討テーマについても本当はもう少し時間をいただきたかったのですが、全体的に時間がないということで、それが十分お話しされていないということなのですから、第1回もそういうふう感じたし、きょうも感じたのですが、この会議の時間は非常に少ない。何かのテーマを十分に議論するには2時間というのはちょっと少ないのではないかとということで、この会議は3時間ぐらいはしてほしいという提案なんです。

もう一つの方法は、必ずしもどのテーマも1回で終わらなそうなものだったら、2回に分けてお話しする。というのは、中途半端で話を終わるよりは、2回に分けてでも話をした方がいいのではないかと提案なのです。皆さんがそれに賛成しなければそれでいいの

ですが。

横川委員長 ありがとうございます。見回すと、かなり高齢者もおりますから体力の限界もあるし、いろいろこれから区長さんを含め、皆さんと検討してまいります。長ければいいというものでもないですしね。

吉房委員 会議の時間は集中的にやったら1時間40分が限度ですよ。2時間というのは長い方です。

横川委員長 吉房さんからいい言葉が出ましたよ。会議は1時間だと。検討させていただきます。

ほかにはないようでございますので、皆様にご協力いただきまして、円滑な、そして密度の濃い議事を進めることができまして、私としては大変満足でございます。副委員長ともども深々と感謝申し上げます。ご協力ありがとうございます存じました。(拍手)

これで第2回中原区区民会議を閉会いたしたいと思えます。ご協力、本当にありがとうございます存じました。

司会 委員長さん、副委員長さん、どうもご苦労さまでした。

それでは、最後に区長から一言、皆様にごあいさつさせていただきます。

区長 会議が閉会いたしましたのであいさつはないのですが、一、二点、モハammadさんから提案がありました。実はきょうは本当は今後の検討テーマももう少し議論をしていただきたかったのですが、時間がないということと、事前にお送りして、何かご提案があればということもありましたし、それから内藤さんからは、こういうことも議論すべきではないかというご発言もありましたので、これはきょうの時点で2年間、こういうテーマがあるのではないかとということにとどめていただいて、今後また進める中で、こういうことも議論しようということを出していただきながらやっていただきたいと思います。

それから時間のことも揺れ動いておりまして、なるべく短時間で効率的にという思いと、それからもう少し時間が欲しいなという思いが両方あります。これをまた皆さんにご相談して、夜やったり昼間やったり、昼間だともう少し時間はとれるかもしれませんが、そういうことも考えながら進めていったらいいのではないかなと思います。

いずれにしても、きょうは多分思いを残しながら、もっともっと子どもの安全について議論したかったということもあるかと思えます。もうお帰りになりましたが、白井校長先生の思いを皆さんくんでいただいて、十分な議論ができたのではないかと思いますので、これからは地域の中でそれをどういうふうに広げていくかということが、この区民会議自身の役割でございますので、きょうのご検討をさらに地域の中で生かしていただければと思います。

本当に長時間、ありがとうございました。(拍手)

午後8時14分 閉会